

—新潟県の農、山、漁村における実態—

新潟大教育 玉木 シゲ

1 新潟県の農山漁村における労働衣服の伝統や現状を調査研究することによって、その種類、形態、材料、着用方法、消耗度等が各地域の特殊性（自然的社会的条件）、作業の内容、経済状態等とどのように関係するかについて考察し、伝統習慣を守りつづけている地域についてはその理由を明らかにし、また改良意欲を持っていても難行している地域の諸問題についても調査し、それぞれの地域に最もふさわしい労働衣服のあり方を研究することによって作業能率の向上と、農山漁村の文化発展に役立つことを目的とする。

2 (1) 新潟県の自然地理的区分を行う。(2) アンケートによって概況を知る。(3) 代表的地域を選んで現地におもむきその実態を知る。a, 村の指導者、古老、住民等から説明を聞き話し合う。b, 現物や実際の作業を観察し写真や記録にとる（スライドをつくる）。(4) 県の最北、典型的地域である岩船郡について詳細に実地調査を行い、自分でも現場で実際に作業をして実験をする。(5) 特に材料については各繊維の土壌や気候条件、化学肥料等に対する耐久性を実験している。

3 論文として公表したことはないが7年前から研究に着手し現在に及んでいる。その間の記録や写真、(スライド)労働衣服の試作物も相当数になっているが尚今後を期して努力している。